みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

国際シンポジウム「中国における歴史の資源化」挨拶文

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-12-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 須藤, 健一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00008625

塚田誠之・河合洋尚編『中国における歴史の資源化の現状と課題』
国立民族学博物館調査報告　142:7–7(2017)

国際シンポジウム「中国における歴史の資源化」挨拶文

須藤健一
国立民族学博物館館長

皆さまおはようございます。本日の国際シンポジウム「中国における歴史の資源化――その現状と課題に関する人類学的分析」には，中国からの発表者をはじめ，多くの皆さまにご参加頂きましてまことにありがとうございます。開会にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

民博は博物館機能をそなえ，大学院教育を行い，大学共同利用機関としての役割を担う，世界でも類例のない文化人類学とその関連分野の研究所です。約60名の教員たちは世界各地で研究調査を実施する一方で，共同研究や国際シンポジウムなどを組織し，毎年国内外から1,000名を超す研究者を招いて，人間と文化に関する学際的研究を進めています。また，博物館活動においては，世界各地から約34万点の民族資料を収集・保存して１万点を展示し，さらに約７万点の映像・音響資料を収蔵し開を進めています。

本日のシンポジウムは，多民族社会の中国において，民族英雄，文物，史跡，景観，記憶，記録や伝承などの歴史の資源化の実態を明らかにすることを目的にしています。具体には，発見あるいは創造された英雄の民族統合のシンボル化，口承史と文献資料の照合による資源化，墓と廟の文化遺産化，古村落・古建築の文化資源化，烈士陵園の儀礼化と社会の再確認，そして百年村落の観光資源化など，歴史・社会・文化的状況によって多彩に意味づけられ，適宜に活用される歴史の資源化の多様な実際が議論されます。

本シンポジウムでは，中国広西師範大学の廖国一さん，室蘭工業大学の松本ますみさん，亜細亜大学の高山陽子さん，大阪経済法科大学の権香淑さん，琉球大学の稲村務さん，本館の韓敏さんの発表をもとに多くのコメンテーターの意見を加味して，活発な議論が繰り広げられることと思います。中国研究の第一線でご活躍の皆さまの参加のもと，現在中国で政府・知識人・民衆・マスメディアなどが展開している「歴史の資源化」や「諸民族文化の再構築と活性化」について，多角的な視点からの分析とその理論化を試みる本シンポジウムの開催をまことに光栄に思います。

この研究をとおして，中国社会の「歴史の資源化」に関する研究が，文化人類学や歴史学を軸に関連分野を学際的かつ多角的に融合させ，新たな研究分野の開拓を目指し，その実現につながることを期待しています。

最後に，本日のシンポジウムに参加くださいました皆さまに感謝するとともに，今後とも民博へのご支援，ご協力をお願いして，私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

平成28年10月22日